

氏 名 平見 有希

授与した学位 博 士

専攻分野の名称 保健学

学位授与番号 博乙第4551号

学位授与の日付 令和5年 3月24日

学位授与の要件 博士の論文提出者

(学位規則第4条第2項該当)

学位論文の題目 Comparison of serum sIL-2R and LDH levels in patients with intravascular large B-cell lymphoma and patients with advanced stage diffuse large B-cell lymphoma

(血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫と進行期びまん性 B 細胞リンパ腫患者における血清 sIL-2R および LDH 値の比較検討)

論文審査委員 教授 中塚 幹也 教授 齋藤 信也 教授 森 恵子

学位論文内容の要旨

血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫 (IVL) は、血管内に選択的に腫瘍が増殖することを特徴とする希少なタイプのリンパ腫である。IVL は臨床症状が非特異的であるため、診断に時間がかかり、その経過は致命的であることが多い。血清可溶性インターロイキン 2 受容体 (sIL-2R) および血清乳酸脱水素酵素 (LDH) 値は、様々なリンパ腫で上昇することが知られているが、B 細胞リンパ腫における sIL-2R 上昇の機序は十分に解明されていない。今回、IVL 患者 39 名の血清中の sIL-2R、LDH、B 症状の有無などの検査所見を解析し、ステージIVのびまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (DLBCL) 患者56名と比較検討した。IVLではsIL2R、LDH とともに DLBCL に比べ有意に高値であった。IVL では、B 症状のある患者とない患者でsIL-2R と LDH の値に有意差はなかった。しかし DLBCL では、B 症状がある場合に sIL-2R、LDH がともに有意に高値であった。IVL で sIL-2R と LDH が高いのは、末梢血の微小環境と関係があるのかもしれないが、これを検証するためにはさらなる研究が必要である。

論文審査結果の要旨

病理教室に存在していたlarge B-cell lymphomaの診断リストから、その患者の診療録を調べ、血液検査データや症状の記述等を抽出し、特に、血清 sIL-2R とLDH値を intravascular large B-cell lymphonn (IVL) と diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) とで比較した研究である。IVLの早期診断や不要な検査をしなくて済むことなどを目的として、sIL-2Rと LDH値を検討したとのことであったが、その病勢、進行度、予後などのデータが含まれておらず、今後はIVLの病勢によるsIL-2Rの上昇などの検討が望まれる。IVLが希少でもあることから、制約がある中で研究の限界があったかと思われ、その中で論文化したことは、保健学博士に値するものと評価できる。今後の研究の継続が期待される。